

・ ・ ・ ・ 岩手県生めん協同組合 講演会 ・ ・ ・ ・

平成 24 年 5 月 18 日 ホテルメトロポリタン盛岡 ニューウイング

『東日本大震災 放送は何を伝えたか』

講師：IBC岩手放送

代表取締役社長 鎌田 英樹 様

平成 24 年 5 月 18 日当組合通常総会に併せて、IBC岩手放送社長 鎌田英樹様をお招きし、「東日本大震災 放送は何を伝えたか」をテーマにした講演を行いました。

3/11 震災が発生した直後、三陸津波を経験している岩手沿岸では「津波」を想定し、すぐにテレビから「高台へ避難してください！」と放送。その何分後かに押し寄せてくる大津波を誰が予測できたのでしょうか。某アナウンサーは「避難してください」ではなく「逃げろっ！逃げろっ！」と言えばよかったと……。残念なことに、真っ先に今どのような事になっているか伝えたい場所には、津波で電線が破壊されテレビからの伝達が不可能になっていました。講師の鎌田社長様は、震災時東京に出張しており、即盛岡へ戻ろうとしたそうですが交通の手段がとれず足止めを食い、大変辛い思いでテレビから流れて来る映像をご覧になったそうです。全国の放送では、現地の映像がリアルタイムで流れていました。

テレビでは情報が届かない状況の中、ラジオ!を使いいろいろな情報を発信しました。安否情報や被災者の方々が知りたい情報を事細かに流し（ラジコも情報発信に一躍）、例えばラジオが足りないと呼びかければ、沢山のラジオがIBCに集まりそれを被災地へ届けたり、寄せられたおおくの励ましの言葉を伝えたり、被災地の方々への心の支えとなったのではないのでしょうか。また、現地に入るときのスタッフの方々の気の配り方は、心に残りました。

考えられない状況下の中でアナウンサーの方々やスタッフの皆様が伝えたかったこと、伝え切れなかった苦悩、過酷で残酷な現状を目の当たりにして、放送ができること・しなければならぬことを、この講演で伝えていただきました。

また、「空より高く」をカセットテープに録音し匿名でIBC宛て寄せてくれた二戸市ちゃいんどスクールの園児たちの歌声がラジオから放送される経緯に至っては、涙を押さえることはできませんでした。この子供達の澄み切った歌声が被災地の方々の心に届き、とても励ましになったと思っています。

人の優しさや励まし方を、放送を通して伝える大切さ、これこそが本当の放送のあり方なのではないかと感じた、とてもすばらしい講演でした。ありがとうございました。

2012.6.12

事務局